

中国古典に由来する日中熟語や諺の相違点について(5)

Ling, Zhi Wei / 凌, 志偉

(出版者 / Publisher)

法政大学教養部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編

(巻 / Volume)

108

(開始ページ / Start Page)

349

(終了ページ / End Page)

382

(発行年 / Year)

1999-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00004883>

中国古典に由来する日中熟語や 諺の相違点について(5)

凌 志 偉

●望みを属(しよく)す

卿等承前已來,常保忠貞之節。自今以後,永為心腹之軍。宜念始終,副茲
矚望。

白居易・與昭義軍將士詔(中)

中：矚望。期望。

●のろし(狼煙、烽火)を挙げる

有寇至,則舉烽火。

史記・周本紀(中)

契丹焚其市邑,一日狼煙百餘舉。

資治通鑑・後漢高祖天福十二年(中)

中：(大きな運動のきっかけとなるような行動を起こすという意味から)吹起～的号
角。燃起～的烽火。

注：中国語の“舉烽火”や“舉狼煙”には上記の意味を持つ比喩的な用法はない。

●齒(は)亡(ほろ)び舌存(そん)す

老子曰,夫舌之存也,豈非以其柔耶。齒之亡也,豈非以其剛耶。

說苑・敬慎(日、中)

中：齒弊舌存。剛者易折,柔者難毀。

●枚(ばい)を銜(ふく)む

羣司馬振鐸,車徒皆作,遂鼓行,徒銜枚而進。

周禮・夏官・大司馬(中)

願銜枚而無言兮，嘗被君之渥洽。

楚辭・九辯(日、中)

中：(息をこらして、声を出さないという意味から)屏声息氣。

注：現代中国語としては“銜枚疾走”（声を出さないですばやく走る）の形で使われることが多い。

●肺肝(はいかん)を出(いだ)す。

今夫平居里巷相慕悅，酒食游戲相徵逐，
詡詡強笑語以相取下，握手出肺肝相示，
指天日涕泣，誓生死不相背負，真若可信。
韓愈・柳子厚墓志銘(日)

中：开誠布公。披肝沥胆。推心置腹。

注：中国語としては“出肺肝”は熟語ではない。

●肺肝(はいかん)を摧(くだ)く

棄絕簾室居，塌然摧肺肝。
杜甫・垂老別(日)

中：(非常に苦心する。いろいろと気を遣い熟慮するという意味から)苦心孤詣。

費尽心思。

注：出典の意味は肺も肝も張り裂けるほどつらいということです。中国語の“摧肝”と“裂肺”はとてもつらいことを意味する同義語です。

●敗軍の将は兵を語らず

廣武君辭謝曰，臣聞敗軍之將，不可以言勇。
史記・淮陰侯列傳(日、中)

中：敗軍之将，不可以言勇。敗将不提当年勇。

●杯中(はいちゅう)の蛇影(だえい)

予之祖父柳為汲令，以夏至日詣見主簿杜宣，賜酒，時北壁上有懸赤弩，照於杯，形如蛇，宣畏惡之，然不敢不飲，其日便得胸痛切，妨損飲食，大用羸露，攻治萬端，不為愈。後柳因事過至宣家，闕視問其變故，云，畏此蛇入腹中。柳還聽事，思惟良久，顧見懸弩，必是也。則使門下史將鈴下侍，徐扶輦，載宣於故處設酒，盃中故復有蛇，因謂宣，此壁上弩影耳，非有他怪。宣遂解，

甚夷憚，由是瘳平。

漢・應劭・風俗通・怪神・世間多有見怪驚怖以自傷者(日、中)

中：杯弓蛇影。杯中蛇影。

注：中国語としては“杯弓蛇影”とするのが普通です。

●馬革(ばかく)に尸(しかばね)を裹(つつ)む

男兒要當死於邊野，以馬革裹屍還葬耳，何能臥牀上在兒女手中耶。

後漢書・馬援傳(日・中)

中：馬革裹尸。馬革包尸。

●謀(はかりごと)は密(みつ)なるを良(よ)しとす

軍讖曰，將謀欲密。

三略・上略(日)

中：謀以密為貴。

●謀(はかりごと)を帷幄(いあく)の中(うち)に運(めぐ)らし勝つことを千里の外(ほか)に決す

夫運籌策帷帳之中，決勝於千里之外，吾不如子房。

史記・高祖本紀(日、中)

夫運籌帷幄之中，決勝千里之外，吾不如子房。

漢書・高帝紀下(日、中)

中：运筹帷幄，決算千里之外。

●馬脚(ばきゃく)を露(あら)わす

這老兒不好惹，動不動先斬後聞，這一來則怕我們露出馬腳來了。

元曲・陳州糶米・第三折

中：露馬脚。

●破鏡(はきょう)の嘆き

昔有夫婦將別，破鏡，人執半以為信。

太平御覽卷七一・漢・東方朔・神異經(日、中)

中：破鏡之叹。

●破鏡(はきよう)再び照らさず

落花難上枝,破鏡不重照。

傳燈錄(日)

中: 破鏡難(再)圓。破鏡不重照。覆水難收。

注: 中国語には“破鏡重圓”という四字成語があるが、別れた夫婦のように、いったんこわれた関係はもとどおりにはならないという意味を持つ“破鏡”を使った熟語はない。

●白玉樓(はくぎよくろう)中(ちゅう)の人となる

長吉將死時,或畫見一緋衣人,云,當召長吉,長吉歛下榻叩頭,言阿彌老且病,賀不願去,緋衣人笑曰,帝成白玉樓,立召君為記,天上差樂,不苦也,長吉竟死。

唐詩記事・卷四三(日、中)

中: 成白玉樓中人。(喻文人逝世)

●白刃(はくじん)踏(ふ)むべし

白刃,可蹈也。中庸,不可能也。

禮記・中庸(日)

中: 赴湯蹈火。

●白刃(はくじん)胸を扞(おか)せば、流矢をみず

白刃扞乎胸,則目不見流矢。

荀子・強國(日)

中: 大难当前无暇思及小难。遇虎不思狼咬。

●白馬(はくば)は馬に非ず

謂白馬為非馬也。白馬為非馬者,言白所以名色,言馬所以名形也。色非形,形非色也。夫言色則形不當與,言形則色不宜從。今合以為物,非也。

公孫龍子・白馬論(日、中)

中: 白馬非馬(論)。

●薄氷(はくひょう)を履(ふ)む

戰戰兢兢,如臨深淵,如履薄冰。

詩經・小雅・小旻(日、中)

中：如履薄冰。

●白璧(はくへき)の微瑕(びか)

白璧微瑕，惟在閑情一賦。

梁昭明太子・陶淵明集序(日、中)

中：白璧微瑕。美中不足。

●伯樂(はくらく)の一顧(いっこ)を得る

蘇代爲燕說齊，未見齊王。先說淳于髡曰，人有賣駿馬者，比三旦立市，人莫之知。往見伯樂，曰，臣有駿馬，欲賣之。比三旦立於市，人莫與言，願之還而視之，去而顧之。臣請獻一朝之賈。伯樂乃還而視之，去而顧之，一旦而馬價十倍。

戰國策・燕策二(日、中)

帝報以手書曰，慕樂德義，思相結納。昔文王三分，猶服事殷。但驚馬鈇刀，不可強扶。數蒙伯樂一顧之價，而蒼蠅之飛，不過數步，即託驥尾，得以絕羣。

後漢書・隗囂傳(日、中)

中：伯樂一顧。

●箸(はし)をつける〔下(おろ・くだ)す〕

食日萬錢，猶曰無下箸處。

晉書・何曾傳(日、中)

中：下箸。下筷子。

●恥(はじ)を雪(すす・そそ)ぐ

昔者，君王辱於會稽，所以不死，爲此事也。今既以雪恥，臣請從會稽之誅。

史記・越世家(日)

若先王之報怨雪恥，夷萬乘之強國，收八百歲之蓄積。

戰國策・燕策二(中)

中：雪耻。

- はじめ有らざるなし、克(よ)く終りあるは鮮(すくな)し

天生蒸民，其命匪諶，靡不有初，鮮克有終。

詩經・大雅・蕩(日)

中：靡不有初，鮮克有終。凡事均有开始，但結果少有成。

- 始め有るも終りなし

小人有始無終，不能如貫高之流也。

晉書・劉聰載記(日、中)

或問，德有始而無終與有終而無始也，孰寧。

揚雄・法言・孝至(中)

中：有始無終。

- 始め有る者は必ず終りあり

有生者必有死，有始者必有終，自然之道也。

揚雄・法言・君子(日、中)

中：有始必有終。

- 始めは処女の如く後(のち)は脱兎(だつと)の如し

始如處女，敵人開戶。後如脫兔，敵不及拒。

孫子・九地(日、中)

中：始如處女，后如脫兔。

- 始めを原(たず)ね終りに反(かえ)る

仰以觀於天文，俯以察於地理。是故知幽明之故。原始反終，故知死生之說。

周易繫辭上(日、中)

中：原始要終。原始反終。原始見終。

- 旗を揚(あ)げる

加兵戎未戢，四方離散，是陛下焦心毀顏，坐以待旦之時也。豈宜揚旗曜武，騁心輿馬之觀乎。

後漢書・陳蕃傳(中)

- 中：(1) (兵を集めて戦いを起こすという意味から) 挙兵。
(2) (新しく事を起こすという意味から) 创办新事业。

●破竹(はちく)の勢い

嚴軍以待，擊之必剋，然後乘破竹之勢，鼓形而東，足以窮其窟穴。

北史・周高祖紀(日、中)

今兵威已振，譬如破竹，數節之後，皆迎刃而解。

晉書・杜預傳(中)

中：勢如破竹。

●白駒(はっく)隙(げき)を過ぐ

人生天地之間，若白駒之過隙(＝隙)，忽然而已。

莊子・知北遊(日、中)

中：白駒過隙。

●白虹(はっこう)日を貫(つらぬ)く

夫專諸之刺王僚也，彗星襲月。聶政之刺韓傀也。白虹貫日。

戰國策・魏策四(日、中)

中：白虹貫日。

●蛤(はまぐり)能(よ)く氣を吐(は)いて楼台(ろうだい)をなす

海旁蜃氣像樓臺，廣野氣成宮闕然。

史記・天官書(日、中)

中：蜃氣像樓台。

注：蜃氣樓(しんきろう)の名の由来だが、中国語の“海市蜃楼”も同じ出典による。

●針(はり)を以(もつ)て地(ち)を刺す

譬若以管窺天，以錐刺地，所窺者甚少，所見者甚少。

說苑・辯物(日、中)

中：以錐刺地。

●馬齡(ばれい)を重(かさ)ねる

晉獻公欲伐虢。荀息曰、君何不以屈產之乘、垂棘之璧、而借道乎虞也。公曰、此晉國之寶也。如受吾幣而不借吾道、則如之何。荀息曰、此小國之所以事大國也。彼不借吾道、必不敢受吾幣。如受吾幣而借吾道、則是我取之中府、而藏之外府、取之中廩、而置之外廩也。公曰、宮之奇之為人也、達心而懦、又少長于君。達心則其言略、懦則不能強諫。少長於君、則君輕之。且夫玩好在耳目之前、而患在一國之後、此中知以上乃能慮之。臣料虞君、中知以下也。公遂借道而伐虢。宮之奇諫曰、晉國之使者、其辭卑、而幣重、必不便於虞。虞公弗聽、遂受其幣而借之道。宮之奇諫曰、語曰、晉亡則齒寒、其斯之謂與。挈其妻子以奔曹。獻公亡虢、五年而後舉虞。荀息牽馬操璧而前曰、璧則猶是也、而馬齒加長矣。

穀梁傳・僖公二年(中)

中：馬齒徒増。

注：中国語は出典のように“馬齒”とするのが普通です。

●範を垂れる

(漢武帝)策封三王、文同訓典。勸戒淵雅、垂範後代。

文心雕龍・詔策(中)

中：以身作則。垂范。

●万歳(ばんざい)の後

(楚王)仰天而笑曰、樂矣、今日之游也。寡人萬歳千秋之後、誰與樂此矣。

戰國策・楚策一(日、中)

吾雖都關中、萬歳後吾魂魄猶樂思沛。

史記・高祖本記(日、中)

中：万岁后。

●万死(ばんし)一生を顧(かえり)みず

將軍瞋目張膽、出萬死不顧一生之計、為天下除殘也。

史記・陳余傳(日、中)

中：万死不顾一生。

●万事(ばんじ)休す

初保勳在保抱，從誨獨鐘愛，故或盛怒，見之必釋然而笑，荊人目為萬事休。

宋史・荊南高氏世家(日、中)

中：万事休矣。

●班女(はんじょ)が閨(ねや)

新裂齊紈素，皎潔如霜雪。裁為合歡扇，團圓似明月。出入君懷袖，動搖微風發。常恐秋節至，涼風奪炎熱。棄捐篋笥中，恩情中道絕。

班婕妤・怨歌行(日、中)

中：班女閨房。(喻空守閨房)

●万緑(ばんりよく)叢中(そうちゅう)紅一点(こういってん)

王荊公“石榴詩”，萬綠叢中紅一點，動人春色不須夕。

宋・胡繼宗・書言故事・花木類・紅一點(日、中)

中：(1) (一面の緑の中にただ一点の紅花があつて、美しく目立つことという意味から) 万绿丛中一点紅。

(2) (多くの男性の中に、ただ一人の女性がまじっているという意味から) 喻在众多的男人中只有一个女人。

(3) (多くのものの中で、ただ一つすぐれて目立つことという意味から) 万绿丛中一点紅。

●日暮れて道遠し

伍子胥曰，為我謝申包胥曰，吾日暮塗遠，故吾倒行而逆施之。

史記・伍子胥列傳(日、中)

中：日暮途遠。

●日を同じくして論せず

誠使鄉曲之俠，予季次原憲，比權量力，效功於當世，不同日而論矣。

史記・游俠列傳(日)

夫破人之與破於人也，豈可同日而言之哉。

戰國策・趙策二(中)

此雖迂鈍，而他日學成，八面受敵，與涉獵者不可同日而語也。

宋・沈作喆＜寓簡＞卷八(中)

中：不可同日而語。

注：出典の違いにより、日本語と中国語の言い回しに微妙な差が生じました。

●火に油を注ぐ

這個秦明，又是一個性急的人，聽了這話，正是爐中添炭，火上澆油，拍馬向前，輪狼牙棍直奔將來。

水滸傳・第六三回(日、中)

中：火上澆油。火上添油。火上加油。

●火を見るよりも明らか

惟汝含德，不惕予一人，予若觀火。

書經・盤庚上(日、中)

中：洞若觀火。

●非を飾る

知足以距諫，言足以飾非。

史記・殷本記(日)

中：文过饰非。

●光を和(やわ)らぐ

挫其銳，解其紛，和其光，同其塵。

老子・四(日、中)

中：和光同塵。

●膝(ひざ)を抱く

胡為悄不樂，抱膝殘燈前。

白居易・夜雨有念詩(日)

亮躬耕壟畝，好為梁父吟。

裴松之注引三國魏魚豢“魏略”：每晨夕從容，常抱膝長嘯。

三國志・蜀志・諸葛亮傳(中)

中：(1) (自分の膝をかかえる。孤独なさまをいうという意味から)抱膝。

(2) (膝にすがりつく。嘆願するという意味から) 懇求。

●肘(ひじ)を曲げる

飯疏食飲水，曲肱而枕之，樂亦在其中矣。

論語・述而(日)

中：曲肱(喻清貧而閑适の生活)。

●鼻息(びそく)を仰(あお)ぐ

袁紹孤客窮軍，仰我鼻息，譬猶嬰兒在股掌之上，絕其哺乳，立可餓殺。

後漢書・袁紹傳(日、中)

中：仰人鼻息。

●顰(ひそ)みに倣(なら)う

故西施病心而顰其里，其里之醜人見而美之，歸亦捧心而顰其里。其里之富人見之，堅閉門而不出。貧人見之，挈妻子而去之走。彼知美顰，而不知顰之所以美。

莊子・天運(日、中)

中：東施效顰。

●尾大(びだい)掉(ふる)わず

末大必折，尾大不掉，君所知也。

左傳・昭公一一年(日、中)

中：尾大不掉。

●飛鳥(ひちょう)尽(つ)きて良弓(りょうきゅう)藏(かく)る

蜚鳥盡，良弓藏。狡兔死，走狗烹。

史記・越王勾踐世家(日)

中：飛鳥尽，良弓藏。

●蹕(ひつ)を駐(とど)む

弭節頓轡，齊鑣駐蹕。

左思・吳都賦(日、中)

中：駐蹕。(指帝王出行，途中停留暫住。)

●匹夫(ひつぷ)の勇

夫撫劍疾視曰，彼惡敢當我哉。此匹夫之勇，敵一人者也。

孟子・梁惠王下(日、中)

吾不欲匹夫之勇也，欲其旅進旅退也。

國語・越語上(中)

中：匹夫之勇。

●匹夫(ひつぷ)の志(こころざし)を奪(うば)うべからず

三軍可奪帥也，匹夫不可奪志也。

論語・子罕

中：匹夫不可奪志也。

●筆力(ひつりよく)鼎(かなえ)を扛(あ)ぐ

龍文百斛鼎，筆力可獨扛。

韓愈・病中贈張十八(日、中)

中：筆力扛鼎。

●人至って賢(かしこ)ければ友なし

水至清即無魚，人至察則無徒。

孔子家語・入官(日、中)

中：人至察則无徒。水清无魚。

●人衆(おお)ければ天に勝つ

吾聞之，人衆者勝天，天定亦能破人。

史記・伍子胥列傳(日、中)

中：人众胜天。

●人必ず自ら侮(あなど)りて然る後に人これを侮る

夫人必自侮，然後人侮之。家必自毀，而後人毀之。國必自伐，而後人伐之。

孟子・離婁上(日、中)

中：人必自侮，然後人侮之。

●人の将(まさ)に死なんとする其の言(げん)や善(よ)し

曾子言曰、鳥之將死、其鳴也哀。人之將死、其言也善。

論語・泰伯(日、中)

中：人之將死、其言也善。

●人は死して名を留(とど)む

豹死留皮、人死留名。故君子疾沒世而名不稱焉。

埤雅・釋豹(日)

彦章武人、不知書、常為俚語謂人曰、豹死留皮、人死留名。

歐陽修・新五代史・王彦章傳(中)

中：人死留名。

●人は人我(われ)は我

爾為爾、我為我、雖袒裼裸裎於我側、爾焉能浼我哉。

孟子・萬章下(日)

中：我行我素。你是你，我是我。

●人木石(はくせき)にあらず

身非木石、獨與法吏為伍、深幽圜牆之中、誰可告愬者。

司馬遷・報任少卿書(日、中)

人非木石皆有情、不如不遇傾城色。

白居易・李夫人詩(日、中)

中：人非木石。

●人我に辛(つら)ければ我また人に辛し

人愛我、我必愛之。人惡我、我必惡之。

列子・說符(日)

愛人者則人愛之。惡人者則人惡之。

孔子家語・賢君(日)

中：人若苛待我，我亦惡待人。

●人を怨(うら)むより身を怨め

苟郷善，雖過無怨。苟不郷善，雖忠來患。故怨人不如自怨，求諸人不如求諸己得也。

淮南子・繆稱訓(日)

中：怨人不如自怨。

●人を見て法を説け

以萬億方便隨宜而說法。

法華經・方便品(日)

中：因材施教。

●人を以(も)って言を廢(はい)せず

子曰：君子不以言舉人，不以人廢言。

論語・衛靈公(日、中)

中：不以人廢言。

●髀肉(ひにく)の嘆(たん)

荊洲豪傑歸先主者日多，表疑其心，陰禦之。

三國志・蜀志・先主傳

裴松之が注として晋の司馬彪の“九州春秋”を次のように引用している。

備住荊州數年，嘗於表坐起至廁，見髀裏肉生，慨然流涕。還坐，表怪問備，備曰，吾常身不離鞍，髀肉皆消。今不復騎，髀裏肉生。日月若馳，老將至矣，而功業不建，是以悲耳。(日)

中：髀肉復生

注：三國演義第三十四回到“玄德長嘆曰，備往常身不離鞍，髀肉皆散，今久不騎，髀裏肉生。”とあり、現代中国語の“髀肉復生”はここから来ている。

●日日(ひび)に新(あらた)なり

苟日新，日日新，又日新。

大學(日)

中：日日新

●響(ひび)きの声に应ずる如(ごと)し

今子罵我,我亦不納。子自持歸,禍子身矣。猶響應聲,影之追形,終無免離。

四十二章經(日)

其動若水,其靜若靜,其應若響。

莊子・天下(中)

然故下之事上也,如響之應聲也。

管子・任法(中)

中：其应若响。其应如响。如响之应声。若响之应声。

●蚍蜉(ひふ)大樹(たいじゅ)を動かす

李杜文章在,光燄萬丈長。不知羣兒愚,那用故謗傷。蚍蜉撼大樹,可笑不自量。

韓愈・“調張籍”詩(日、中)

中：蚍蜉撼大树。蚍蜉撼大木。

●暇(ひま)を盗む

聞健此時相勸醉,偷閑何處共尋春。

白居易・歲假內命酒贈周判官蕭協律(中)

中：偷閑。

●隙(ひま)過(す)ぐる駒(こま)

人生天地之間,若白駒之過郤,忽然而已。

莊子・知北遊(日、中)

中：白駒过隙。

●百尺竿頭(ひゃくしゃくかんとう)に一歩を進む

百尺竿頭須進步,十方世界是全身。

景德傳燈錄——一〇(日)

故聊復言之,恐或可以少助百尺竿頭更進一步之勢也。

朱熹・答巩仲至書(中)

中：百尺竿头更进一步。

●百草(ひやくそう)を闘(たたか)わす

若共吳王闘百草,不如應是欠西施。

劉禹錫・白舍人曹長寄新詩有遊宴之盛因以戲酬詩(日)

五月五日,四民并蹋百草,又有闘百草之戲。

南朝・梁・宗懷・荊楚歲時記(中)

中：斗百草。

●百足(ひやくそく)の虫は死して倒れず

故語曰,百足之蟲,至死不僵,扶之者衆也。此言雖小,可以譬大。

三國・魏・曹冏・六代論(日、中)

中：百足之虫,至死不僵。百足之虫,死而不僵。百足不僵。

●百年河清を俟(ま)つ

子駟曰,周詩有之曰,俟河之清,人壽幾何。

左傳・襄公八年(日、中)

中：河清难俟。

●百聞(ひやくぶん)は一見に如(し)かず

百聞不如一見,兵難踰度。臣願馳至金城,圖上方略。

漢書・趙充國傳(日、中)

中：百聞不如一见。

●百里(ひゃくり)を行く者は九十里を半ばとす

詩云,行百里者半於九十,此言末路之難。

戰國策・秦策五(日、中)

中：行百里者半(于)九十。

●豹(ひょう)は死して皮を留(とど)め人は死して名を残す

→虎(とら)は死して皮を留め、人は死して名を残す

●瓶水(びょうすい)を移す

阿難事我二十余年(略),我所說十一部經,一經於耳,曾不再問,如寫瓶水,置之一瓶。

大般涅槃經・卷四十(日、中)

中:写瓶。(谓传法无遗漏,如水之从此瓶泻于他瓶。)

●氷炭(ひょうたん)相容(あいひ)れず

身被疾而不問兮,心沸熱其若湯。氷炭不可以相並兮,吾固知乎命之不長。

東方朔・七諫・自悲(日、中)

爭訟止,技長立,則彊弱不穀力,氷炭不合形,天下莫得相傷,治之至也。

韓非子・用人(中)

中:氷炭不相容。氷炭不同器。氷炭不同炉。

●皮裏(ひり)の陽秋(ようしゅう)

袁少有簡貴之風,與京兆杜乂,俱有盛名。冠于中興,譙國桓彝,見而目之曰,季野有皮裏春秋。言其外無臧否,而內有所褒貶也。

晉書・褚裒列傳(日、中)

中:皮里春秋。皮里阳秋。(指藏在心里不说出来的评论。)

●飛竜(ひりゅう)雲に乗る

飛龍承雲,騰蛇遊霧,吾不以龍蛇為不託於雲霧之勢也。雖然,夫擇賢而專任勢,足以為治乎,則吾未得見也。夫有雲霧之勢,而能乘遊之者,龍蛇之材美之也。

韓非子・難勢(日、中)

中:飞龙乘云。(喻英雄乘时而得势。)

●飛竜(ひりゅう)天に在(あ)り

九五,飛龍在天,利見大人。

易經・乾卦(日、中)

中:飞龙在天。(喻帝王在位。)

●牝鶏(ひんけい)晨(あした)す

牝雞無晨，牝雞之晨，惟家之索。

書經・牧誓(日、中)

與帝言，或及天下事，辭曰，牝雞司晨，家之窮也，可乎。

新唐書・后妃傳上・太宗長孫皇后(日、中)

中：牝鸡司晨。

●鬢糸(びんし)茶烟(さえん)の感

舳船一棹百分空，十載青春不負公。今日鬢絲禪榻畔，茶煙輕颺落花風。

杜牧・題禪院(日、中)

中：鬢丝茶烟。(喻年迈时缅怀过去，万念俱寂的心情。)

●布衣(ふい)の交わり

衛君與文布衣交，請具馬車皮幣，願君以此從衛君遊。

戰國策・齊策三(日、中)

臣以為布衣之交，尚不相欺，況大國乎。

史記・廉頗藺相如傳(日)

中：布衣交。

●風(ふう)を望む

引其賢雋而置之列位，使海內回心，望風而願治。

三國志・魏志・王粲傳(日、中)

遠託異國，昔人所悲，望風懷想，能不依依。

文選・李陵“答蘇武書”(中)

中：望风而靡。

●風樹(ふうじゅ)の嘆(たん)

樹欲靜而風不止，子欲養而親不待也。

韓詩外傳・卷九(日、中)

中：风木之悲。风树之叹。风树叹。

●不義(ふぎ)にして富み且(か)つ貴(たつ)きは浮雲(ふうん)の如(ごと)し

不義而富且貴，於我如浮雲。

論語・述而(日、中)

中：不义而富且贵，有若浮云。

●俯仰(ふぎょう)天地に愧(は)じず

仰不愧於天，俯不忤於人。

孟子・盡心上(日、中)

中：俯仰无愧。

●福(ふく)過ぎて禍(わざわ)い生ず

下官常懼福過災生，實思避盈居損。

南史・劉敬宣傳(日)

十餘年間，位超先達，無勞受遇，無與臣比。小人祿薄，福過災生。止足之分，臣所宜守。

晉書・庾亮傳(中)

中：福过灾生。

●覆車(ふくしゃ)の戒(いまし)め

以凡才備位卿尹，不惟謙敬之節，不忌覆車之戒。

晉書・庾純傳(日)

鄙諺曰，不習為吏，視已成事。又曰，前車覆，後車誡。

前漢書・賈誼傳(中)

中：覆车之戒。

●腹心(ふくしん)を布(し)く

君之惠也，孤之願也。非所敢望也，敢布腹心，君實圖之。(日)

中：开诚布公。打开天窗说亮话。

●覆水(ふくすい)盆(ぼん)に返らず

覆水再收豈滿杯，棄婦已去難重廻。

李白・白頭吟(日)

國家之事，亦何容易。覆水不可收。宜深思之。

後漢書・何進傳(中)

雨落不上天，覆水難再收。君情與妾意，各自東西流。

李白・妾薄命(中)

中：覆水难收。

●負薪(ふしん)の憂(うれ)え

君使士射，不能，則辭以疾，言曰，某有負薪之憂。

禮記・曲禮下(日、中)

中：負薪之忧。(喻有疾病。)

●負薪(ふしん)の資(し)

臣以負薪之資，拔於陪隸之中。

後漢書・袁紹傳(日)

中：出身寒微。

●浮世(ふせい)夢の如(ごと)し

光陰者，百代之過客，而浮生若夢，為歡幾何。

李白・春夜宴桃李園序

中：浮生若梦。

●符節(ふせつ)を合わせる

得志行乎中國，若合符節，先聖後聖，其揆一也。

孟子・離婁下(日)

中：一模一样。吻合。

●腐草(ふそう)化(か)して螢(ほたる)となる

溫風始至，蟋蟀居壁，鷹乃學習，腐草為螢。

禮記・月令(日)

大暑之日，腐草化為螢。

逸周書・時訓(中)

中：腐草化为萤。

●釜中(ふちゅう)魚(うお)を生ず

所止單陋,有時絕粒,窮居自若,言貌無改。閩里歌之曰,甌中生麈范史雲,
釜中生魚范萊蕪。

後漢書・范冉傳(日、中)

中:一貧如洗。甌生釜魚。

●釜中(ふちゅう)の魚

相聚偷生,若魚遊釜中,知其不可久。

資治通鑑・漢記・順帝漢安元年(日)

相聚偷生,若魚遊釜中,喘息須臾聞耳。

後漢書・張綱傳(中)

中:魚游釜中。釜底游魚。

●筆(ふで)を置く(=擱く)

舊詩數百首悉焚去,擱筆不復論詩。

宋・畢仲游・回范十七承奉書(中)

中:擱筆。

●筆(ふで)を下ろす

君房下筆,言語妙天下。

漢書・賈捐之書(中)

中:下筆。

●筆(ふで)を断つ

晚始撰錄,彌歷炎涼,採舊增新,今乃斷筆。

北齊魏收“上‘魏書’十志啟”(中)

中:断筆。

●筆(ふで)を執(と)る

二十許載,時事蕩然,萬不記一,後人執筆無所憑據。

魏書・山偉傳(中)

中:执筆。

●筆(ふで)を投げる

中原初逐鹿，投筆事戎軒。

唐・魏徵・述懷詩(中)

許子儒冠怨誤身，如今投筆說星辰。

宋・楊萬里・送談星辰許季升(中)

中：(書くことを途中でやめるという意味から)輟筆。

注：中国語の“投筆”は文筆業または事務職の仕事をやめて、他の仕事につくという意味だが、“投筆从戎”のイメージが強いため、従軍するという意味で使われることが多い。

●筆(ふで)を走らせる

走筆往來盈卷軸，除官遞互掌絲綸。

白居易・餘思未盡加為六韵重寄微之(中)

中：走筆。

●船に刻みて剣を求む

楚人有涉江者，其劍自舟中墜於水。遽刻其舟曰，是吾劍之所從墜。舟止，從其所刻者入水求之。舟已行矣，而劍不行，求劍若此，不亦惑乎。

呂氏春秋・察今(日、中)

中：刻舟求劍。

●旧きを温(たず)ねて新しきを知る。

子曰，温故而知新，可以為師矣。

論語・為政(日、中)

中：温故知新。

●文(ぶん)は人なり

子由之文寶勝僕，而世俗不知，乃以為不如。其為人深不願人知之，其文如其為人。

蘇軾・答張文潛書(中)

中：文如其人。文似其人。

●文(ぶん)を属(しよく)す

賈誼，雒陽人也。年十八，以能誦詩書屬文，稱於郡中。

漢書・賈誼傳(日)

中：撰写文章。

● 刎頸(ふんけい)の友

卒相與驩，為刎頸之交。

史記・廉頗藺相如傳(日)

中：刎頸交。

● 刎頸(ふんけい)の交(まじ)わり

卒相與驩，為刎頸之交。

史記・廉頗藺相如傳(日、中)

餘年少，父事張耳，兩人相與為刎頸交。

史記・張耳陳餘傳(中)

中：刎頸交。

● 文事(ぶんじ)ある者は必ず武備(ぶび)あり

因是以見，雖有文事，必有武備，孔子於頰谷之會見之矣。

春秋穀梁傳・定公十年(日)

中：有文事，必有武备。

● 文章(ぶんしょう)は経国(けいこく)の大業(たいぎょう)不朽(ふきゅう)の盛事(せいじ)

蓋文章經國之大業，不朽之盛事。年壽有時盡，榮樂止乎其身。二者必至之常期，未若文章之無窮。

魏・曹丕・典論・論文(日、中)

中：文章经国之大业，不朽之盛事。

● 糞土(ふんど)の牆は朽(ぬ)るべからず

子曰，朽木不可雕也，糞可之牆不可朽也。

論語・公冶長(日、中)

中：朽木糞土。朽木难雕。糞土之墙不可朽。

●兵に常勢(じょうせい)無し

故兵無常勢,水無常形。能因敵變化而取勝者,謂之神。

孫子・虚實(日、中)

中:兵无常勢。

●兵は神速(しんそく)を貴(たつと)ぶ

嘉言曰,兵貴神速。今千里襲人,輜重多,難以趣利,且彼聞之,必為備。

三國志・魏志・郭嘉傳(日、中)

中:兵貴神速。

●兵は拙速(せつそく)を尊ぶ

故兵聞拙速,未睹巧之久也。

孫子・作戰(日、中)

中:兵聞拙速。

●閉戸(へいこ)先生

孫敬入學,閉戸牖,精力過人,太學謂曰閉戸先生。

楚國先賢傳(日、中)

中:閉戸先生。(指不預外事,刻苦读书的人。)

●萍水(へいすい)相逢(あ)う

萍水相逢,盡是他鄉之客。

唐・王勃・秋日登洪府滕王閣餞別序(日、中)

中:萍水相逢。

●哺(ほ)を吐(は)く

一沐三捉髮,一飯三吐哺。

史記・魯周公世家(日、中)

中:吐哺握髮。

●暴(ほう)を以て暴に易(か)う

武王已平殷亂,天下宗周,而伯夷、叔齊恥之,義不食周粟,隱於首陽山,采薇

而食之。及餓且死，作歌，其辭曰，登彼西山兮，采其薇矣。以暴易暴兮，不知其非矣。

史記・伯夷列傳(日、中)

中：以暴易暴。

- 鮑魚(ほうぎょ)の肆(いちぐら)腥(なまぐさき)を知らず
「鮑魚の肆に入るが如し」に同じ

- 鮑魚(ほうぎょ)の肆(いちぐら)に入(い)るが如し

與不善人居，如入鮑之肆；久而不聞其臭，亦與之化矣。

孔子家語・六本(日、中)

與君子游，苾乎如入蘭芷之室，久而不聞，則與之化矣。與小人游，貸乎如入鮑魚之次，久而不聞，則與之化矣。

大戴禮記・曾子疾病(中)

中：鮑魚之肆。鮑魚之次。

- 忘形(ほうけい)の交(まじ)わり

孟郊者，字東野。湖州武康人，少隱嵩山，性介，少諧合，愈一見，為忘形交。

新唐書・孟郊傳(日、中)

中：忘形交。(指相处不拘形迹的知心朋友。)

- 亡国(ほうこく)の音(おん)

桑間濮上之音，亡國之音也。其政散，其民流，誣上行私，而不可止也。

禮記・樂記(日、中)

中：亡國之音。

- 茅茨(ほうし)翦(き)らず采椽(さいてん)削らず

堯之王天下也，茅茨不翦，采椽不斲。

韓非子・五蠹(日、中)

中：茅茨不翦，采椽不斲。(謂崇尚儉朴，不事修飾。)

- 亡羊(ほうよう)の嘆(たん)

楊子之鄰人亡羊，既率其黨，又請楊子之豎追之。楊子曰，嘻，亡一羊，何追者眾。鄰人曰，多歧路。既反，問，獲羊乎。曰，亡之矣。曰，奚亡之。曰，歧路之中又有歧焉，吾不知所之，所以反也。〈略〉心都子曰，大道以多歧亡羊，學者以多方喪生。

列子・說符(日、中)

中：多歧亡羊。

●北門(ほくもん)の嘆

北門，刺仕不得志也。

詩經・邶風・北門(日、中)

李弘度常歎不被遇，殷揚州知其家貧，問，君能屈志百里不。李答曰，北門之歎，久已上聞，窮猿奔林，豈暇擇木乎。遂授剡縣。

世說新語・言語(日、中)

中：北門之嘆。(喻士之不遇。)

●戈(ほこ)を倒(まさしま)にす

罔有敵于我師，前徒倒戈，攻于後以北，血流漂杵。

尚書・武成(日、中)

中：倒戈。

●反故(ほご)にする

驕士年過八十，耳目猶聰明，手以反故抄寫，火下細書，復成二三千卷。

南齊書・高逸傳・沈驕士(中)

中華書局編輯部校勘記：“今按近年敦煌發現之北朝及唐代寫經，往往利用舊官文書及戶籍冊之反面以書佛經，即所謂‘反故’也。”(中)

中：(1) (無駄にする。不用なものとして捨てるという意味から) 作废。

(2) (約束や決まりなどを取り消したり、破ったりするという意味から) 毀約。

注：上記のように、“反故”の本来の意味は古い紙の裏面を使って書くことです。

●星を戴(いただ)く

或時與舟人漁子方潭并釣，俯仰極樂，戴星而歸。

唐・王績・答馮子華處士書(中)

對牀欲作連夜雨，念汝還須戴星起。

蘇軾・將至筠先寄遲適遠三猶子詩(中)

中：披星戴月。戴月披星。

●輔車(ほしや)相依(あいよ)る

諺所謂輔車相依，唇亡齒寒者，其虞虢之謂也。

左傳・僖公五年(日、中)

中：唇齒相依。輔車相依。

●臍(ほぞ)を固める

劍閣雖巖，憑之者蹶，非所以深根固蒂也。

晉・左思・魏都賦(日、中)

有國之母，可以長久，是謂深根柢，長生久視之道。

老子(中)

中：(固く心を定める。覚悟を決めるという意味から)下決心。做好思想准备。

注：中国語の“深根固蒂”は根が深いという意味です。

●臍(ほぞ)を噬(か)む

亡鄧國者，必此人也。若不早圖，後君噬臍，其及圖之乎。圖之，此為時矣。

左傳・莊公六年(日、中)

中：噬臍莫及。后悔。后悔莫及。

●螢(はたる)の光窓の雪

胤恭勤不倦，博學多通。家貧不常得油，夏月則練囊盛數十螢火以照書，以夜繼日焉。

晉書・車胤傳(日、中)

孫康家貧，常映雪讀書。

初學記・卷二(日、中)

中：螢窗雪案。雪案螢窗。雪案螢灯。

●骨に徹(てつ)する(=徹(とお)る)

悠揚噴鼻宿醒散，清峭徹骨煩襟開。

唐・劉禹錫・西山蘭若試茶歌(中)

中：彻骨。切骨。

●骨を刺す

布衣不換錦官袍，刺骨清寒氣自豪。

宋・戴復古・飲中詩(中)

中：刺骨。

●墓木(ほぼく)已(すで)に拱(きょう)す

爾何知。中壽，爾墓之木拱爾。

左傳・僖公三十二年(日、中)

中：墓木已拱。

●法螺(ほら)を吹く

今佛世尊欲說大法，雨大法雨，吹大法螺，擊大法鼓，演大法義。

法華經・序品(中)

吹法螺而朝玉帛，乘瑞泉而會人。

唐・張說・為留守作賀嶺山(中)

中：(1) (法螺貝を吹き鳴らすという意味から)吹法螺。

(2) (大げさなうそを言うという意味から)吹牛。吹牛皮。

注：中国語の“吹法螺”は(1)の意味しかなく、“吹大法螺”、“吹螺”ともいう。

●盆(ぼん)を翻(ひるがえ)す(=傾ける)

白帝城中雲出門，白帝城下雨翻盆。

杜甫・白帝詩(中)

前朝欲上已蠟屐，黑雲白雨如傾盆。

蘇軾・介亭餞楊傑次公詩(中)

中：傾盆大雨。

●枚舉(まいきょ)に遑(いとま)がない

王事靡盬，不遑啟處。

詩經・小雅・四牡(中)

其間盜官賣爵，汙辱宮闈者多矣，亦何可枚舉哉。

北史・恩幸傳序(中)

凡茲文明事業，不遑枚舉。

梁啟超・噶蘇士傳・第四節(中)

中：不勝枚舉。

注：上記の例のように、中国語にも“不遑枚舉”という言い方があるが、“不勝枚舉”の方が普通です。

●枕(まくら)を欹(そばだ)つ

遺愛寺鐘欹枕聽，香爐峯雪撥簾看。

白居易・香爐峯下新卜山居詩(日)

中：(枕を一方に傾けて耳をすまして聞くという意味から)側耳傾听。

注：“欹”は元来“猜”と通用し、“欹枕”は“枕にもたれる”という意味です。

●枕(まくら)を高くする

無楚韓之患，則大王高枕而臥，國必無憂矣。

史記・張儀傳(日)

三窟已就，君姑高枕為樂矣。

戰國策・齊策四(中)

中：高枕无忧。

●麻姑(まこ)を倩(やと)うて痒(かゆ)きを搔(か)く

杜詩韓集愁來讀，似倩麻姑癢處搔。

天外鳳凰誰得髓，無人解合續弦膠。

杜牧・讀韓杜詩(日)

中：(思いのままに物事の行き届くことのたとえという意味から)万事尽如人意。

注：中国語は“麻姑搔背”という熟語がなく、麻姑の手は鳥の爪のように細長く、背中のかゆい所を搔いてもらえるという意味で、比喩的な用法はない。

●末大(まつだい)必ず折る

若由是觀之，則害於國，末大必折，尾大不掉，君所知也。

左傳・昭公十一年(日、中)

中：末大必折。

●俎板(まないた)の鯉(こい) [= 魚(うお)]

如今人為刀俎，我為魚肉。何辭為。

史記・項羽本記(中)

中：俎上肉。

●眦(まなじり)を決す(=裂く)

噲遂入，披帷西向立，瞋目視項王，頭髮上指，目眦盡裂。

史記・項羽本記(中)

中：瞪眼。发指眦裂。横眉竖眼。

●学んで時にこれを習う亦(また)説(よろこ)ばしからずや

學而時習之，不亦説乎。

論語・學而(日、中)

中：学而时习之，不亦说乎。

●豆(まめ)を煮るに萁(まめから)をたく

煮豆燃豆萁，豆在釜中泣。

本是同根生，相煎何太急。

曹植・七步詩(日、中)

中：煮豆燃萁。

●眉(まゆ)に火がつく

僧問蔣山佛慧，如何是急切一句。慧曰，火燒眉毛。

五燈會元・雲居舜禪師法嗣・蔣山法泉禪師(中)

元祐初，溫公入相，諸賢並進用，革新法之病民者，如救眉燃，青苗、助役其尤也。

文獻通考・市采二(中)

我如今不知便罷，即是天教我知了，正是度日如年，燃眉之急。

水滸傳・第三五回(中)

中：燃眉之急。火烧眉毛。焦眉之急。

●満(まん)を持(じ)す

軍士吏被甲，銳兵刃，馱弓弩，持満。

前漢書・周亞夫傳(日)

史記・絳侯周勃世家(中)

中：(1) (弓をいっぱい引きしぼるという意味から) 拉満弓弦。

(2) (十分に用意して機会を待つという意味から) 作好准备, 以待时机。

持満者與天, 定傾者與人。

史記・越王勾踐世家(日)

子路曰, 敢問持満有道乎。孔子曰, 聰明聖知, 守之以愚。功被天下, 守之以讓。勇力撫世, 守之以怯。富於四海, 守之以謙。此所謂挹而損之之道也。

荀子・宥坐(中)

中：(3) (物事が絶頂に達し、その状態を保つという意味から) 保持顶峰状态。

注：(3) の出典の“持満”は創業を引き継ぎ、事業の基盤を固めるという意味です。

●満(まん)を引く

胡急撃矢下如雨, 漢兵死者過半, 漢矢且盡, 廣乃令持満毋發。

(注) 師古曰, 注矢於弓弩, 而張満之, 不發矢也。

前漢書・李廣傳(日)

中：(1) (弓を十分に引きしぼるという意味から) 拉満弓弦。

設宴飲之會, 及趙李諸侍中, 皆引満舉白, 談笑大噓。

前漢書・敘傳上

中：(2) (杯に酒をなみなみとついで飲むという意味から) 喝斟満杯の酒。

●身を殺して以(もつ)て仁(じん)を成す

子曰, 志士仁人, 無求生以害仁, 有殺身以成仁。

論語・衛靈公(日、中)

中：杀身成仁。

●右に出る者がいない

賢趙臣田叔, 孟舒等十人, 召見與語, 漢廷臣無能出其右者。

顔師古注：古者以右為尊, 言材用無能過之者, 故云不出其右也。

漢書・高帝記下(中)

中：无出其右。

●水清ければ魚(うお)棲(す)まず

水至清即無魚，人至察則無徒。

孔子家語・入官(中)

中：水清无魚。

●水の低きに就く如(ごと)し

誠如是也，民歸之，由水之就下，沛然誰能禦之。

孟子・梁惠王上(日)

人性之善也，猶水之就下也。

孟子・告子上(日)

中：如水之下就。(喻不可阻挡的自然趋势。)

●水を得た魚(うお)のよう

如游魚得水，景山興雲，或卷或舒，乍輕乍重。

李斯・用筆法(中)

孤之有孔明，猶魚之有水也。

三國志・蜀書・諸葛亮傳(中)

中：如魚得水。

●三度(みたび)諫(いさ)めて身(み)退(ひ)く

為人臣之禮，不顯諫，三諫而不聽，則逃之。

禮記・曲禮下

中：三諫之义。

●三度(みたび)肘(ひじ)を折って良医となる

二子將伐公，齊高彊曰，三折肱知為良醫。唯伐君為不可，民弗與也。

左傳・定公十三年(日、中)

中：久病成良医。三折肱为良医。

●道は近きにある

道在邇而求諸遠，事在易而求諸難。

孟子・離婁上(日)

中：(学問の道は自分の身に基づくものであるから、手近なところにあるという意味から)道在咫尺。

●満つれば虧(か)く

語曰、日中則移、月満則虧、物盛則衰、天地之常數也。

史記・蔡澤傳(日、中)

中：月満則亏。月盈則食。

●源(みなもと)清ければ流れ清し

官人守數、君子養原。源清則流清、源濁則流濁。

荀子・君道(日、中)

中：源清流洁

●耳(みみ)順(したが)う年(とし)

子曰、吾十有五而志于學、三十而立、四十而不惑、五十而知天命、六十而耳順、七十而從心所欲、不踰矩。

論語・為政(日、中)

中：耳順。耳順之年。

●耳に逆らう

忠言逆耳而利於行、毒藥苦口利於病。

漢書・張良傳(日)

且忠言逆耳利於行、毒藥苦口利於病。

史記・留侯世家(中)

中：逆耳。刺耳。

●耳を掩(おお)いて鈴を盗む

范氏之亡也、百姓有得鐘者、欲負而走。則鐘大不可負、以椎毀之、鐘悅然有音。恐人聞之而奪己也、遽掩其耳。

呂氏春秋・自知(日、中)

中：掩耳盜鈴

● 耳を信じて目を疑う

貴遠而賤近者，常人之用情也。信耳而疑目者，古今之所患也。

抱朴子・廣譬（日）

中：信人之言，疑己所視。

今回より日本の出典及び中国の出典をそれぞれ挙げることにした。日本の出典は主に大辞林（三省堂、1988年初版）と日本国語大辞典（小学館、1972年12月第一版）から引用し、中国の出典は主に漢語大詞典（漢語大詞典出版社、1990年12月第一版）と中華成語大辞典（吉林文史出版社、1986年12月第一版）から引用した。日本側の引用しかないものの多くは中国では熟語になっていない言い回しです。中国側の引用しかないものは、日本人が中国の古典から借用したという意識をあまり持っていなかったと解釈して良いのだろうか。今後の研究課題にしたい。